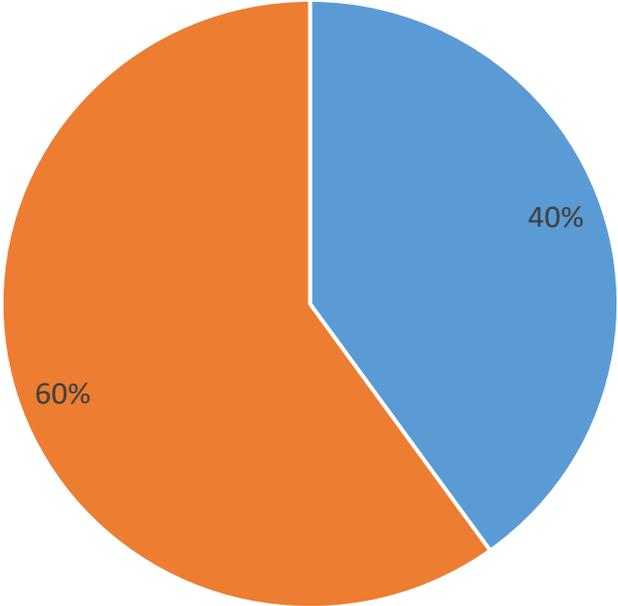


河田フェザー株式会社

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none">● 業種：製造業（繊維製品）● 事業概要：羽毛の加工及び原料製品の販売● 事業規模：従業員数70人
2.削減目標案	<p><Scope 1・2 の削減目標と削減に向けた取り組み> 工場、社宅などでの燃料転換と電力の再エネ化（バイオマスなど）を検討中である。</p> <p><Scope 3 の削減目標と削減に向けた取り組み> ステークホルダー・エンゲージメントとして、羽毛製品のリサイクル推進及び再エネへの転換を検討中である。</p>

河田フェザー株式会社

項目	内容							
3.基準年のGHGインベントリ	<ul style="list-style-type: none">● Scope 1・2・3の排出量の状況 <p data-bbox="813 482 962 529">排出量</p>  <table border="1"><caption>GHG Emissions Distribution</caption><thead><tr><th>Scope</th><th>Percentage</th></tr></thead><tbody><tr><td>SCOPE1</td><td>40%</td></tr><tr><td>SCOPE2</td><td>60%</td></tr></tbody></table>	Scope	Percentage	SCOPE1	40%	SCOPE2	60%	<ul style="list-style-type: none">● SCOPE1 : 452.8 [tCO2]
		Scope	Percentage					
		SCOPE1	40%					
SCOPE2	60%							
<ul style="list-style-type: none">● SCOPE2 : 676.4 [tCO2]								
<ul style="list-style-type: none">● SCOPE3 : N/A								

河田フェザー株式会社

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<ul style="list-style-type: none">●世界的な温暖化で羽毛製品の需要と供給に重大な変化が生じ、さらに温暖化が進むことで需要減、つまり市場の冷え込みが長期にわたって発生する可能性がある。●自社やサプライヤーの省エネ活動の促進や、安価な再エネの導入によって、エネルギーコストの削減が実現できれば、生産や調達コストの削減につながる可能性がある。
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none">●気候変動リスクは重大であるという認識のもと、ステークホルダー・エンゲージメントを進めることで、ステークホルダーに対してアピールし、ビジネスチャンスの拡大、生産及び調達コストの削減が実現することを期待する。

河田フェザー株式会社

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none">● 全社で目標案を検討し、コンセンサスを得たうえで、温暖化によるリスクと機会の評価結果を考慮に入れ、目標を設定することとした。● 目標設定及び実現可能性について議論した結果、2030年時点の事業環境の変化は非常に重要であることや、社会的要請に応え必要性を考慮した結果、バックキャストで目標を設定するという方針を決定した。
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none">● Scope1 及び 2 の削減において、再エネの活用が必須である。それゆえ、弊社にとって適正かつ効果的、持続的な供給について検討していく必要がある。● Scope3の把握および削減目標検討のため、社内での予算及びマイルストーン設定を行なっていく必要がある。